

評価委員会総合評価

研究課題名：全球大気海洋結合モデルを用いた季節予報システムの開発

評価委員

委員長：田中正之

委員：蒲生俊敬、中島映至、田中 佐、田中 博、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 11 月 14 日

1. 総合評価

- ☐ 非常に優れた研究であった。
- ☒ 優れた研究であった。
- ☐ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、気象庁新全球大気モデルと気象研究所全球海洋海氷モデルを結合して、高分解能全球大気海洋結合モデルと対応する同化システムを開発し、季節予測システムの高度化を目指したものである。

本研究により、SCUP カップラー、海洋の 3 極一般化座標等、重要な開発項目が実現され、季節予報の精度が改善されたほか、外部への研究成果の発信も適切に行われたことを高く評価する。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定のもと概ね適切な研究体制で実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、季節予報業務に向けた新たなモデルの開発・応用、および海洋データ同化システム開発において、必ずしも計画通り進展しなかった面もある。

季節予報の高度化は長年の課題であり、社会的ニーズも大きいですが、課題の難度も高い。次期中期研究計画に反映させるべき問題点は適切に指摘されていることから、研究所内のモデル開発資源（開発者・計算機）の重点化、連携による開発コストの改善などの調整が重要なポイントになると考えられる。今後 10 年程度を見通した気象庁もしくは気象研究所のモデル開発についてのロードマップを提示するなどして、着実に研究を実施して欲しい。